



川崎市議会議員

本間 賢次郎 ケンジロウ

市政レポート No. 37 (令和2年11月号)

未来へ働き続ける、想いを「ツナ」ぐ。
イメージキャラクター：本マグロ ツナジロウ

事務所 〒210-0834 川崎市川崎区大島 3-14-17

TEL044-742-8072

FAX044-211-1081

ごあいさつ



決算議会が10月12日に閉会致しました。私は決算審査特別委員会環境分科会において、環境に配慮した持続可能な社会づくりの土台ともなる取り組み「スマートシティ」を取り上げ、質疑を行いました。そして、同29日に開かれた環境委員会では川崎市環境基本計画改定案が議題となり、本市の未来、将来のまちづくりのコンセプトについて、決算議会での審査を踏まえ質疑し、ウィズ・コロナ、アフター・コロナと

言われる時代を捉え、近未来型の技術やノウハウを市民が有効に活用できる具体的な取り組みの必要性を提言し、環境教育の内容についても言及致しました。これからも、新たな時代、次の時代に向け、環境先進都市・かわさきの経験を活かして参ります。

慣例に捉われず、区民のニーズを タイムリーに市長へ要望！

毎年9月から10月にかけて開かれる定例会は秋の議会は決算議会とも呼ばれ、前年度決算について重心を置いて議論致します。前年度決算の審議は、前年の取り組みの成果や反省を詳らかにすることで来年度の予算編成に反映させていくため重要視されています。そして、11月はオータムレビュー（毎秋実施する予算編成の課題調整）が行われる予定です。

オータムレビューに向け、私が代表幹事を務める川崎区選出議員団（区議団）では、昨年度決算の審議と平行して来年度予算編成に対する要望事項を取りまとめ、12日の本会議終了後に市長に手渡しました。例年、市長への要望書は、11月中旬に内容を調整し同月下旬に提出していましたが、

昨年は台風被害を受け、今年は新型コロナウイルス感染症の影響があり、新規の要望事項やより具体的な内容が増えたため、早めに行政に伝えることが重要と考え、前例、慣例に捉われず各議員に協力を依頼し、前倒しし実施致し、他区に先駆けた要望活動となりました。



↑ 10月12日に市長（中央右）に対し、要望書を手渡す川崎区選出議員団。中央左が代表幹事を務める本間賢次郎。

私は区議団を代表し、市長にこの時期に要望書を提出するに至った経緯を説明し、オータムレビューにて検討して頂くよう伝えました。そして、要望書には、従前から要望を続けている交通環境や福祉、防犯、災害対策をはじめ、来年に延期となった東京オリンピック・パラリンピックを見据えたインバウンド対策

や観光施策の充実、新型コロナウイルス対策を講じるミュージシャンのストリートライブへの支援、令和5年に迎える東海道川崎宿起立400年記念事業、区役所のデジタル化を含めた利便性の向上等について党派を超えて意見集約しております。

私が代表幹事を務める任期が来年3月末までですので、区議団を代表して市長へ要望を行うことは今期では今回が最後になります。しかし、要望することがゴールではなく、実現することが重要ですので、今後も同区の議員と協力し、区民のニーズを適時に行政に対ししっかりと伝え、スピーディーに、スムーズに各取り組みが実現するよう、行政とのコミュニケーションを重ね、川崎区にお住まいの皆様はもちろんのこと、区内に在勤、在学の方々、レジャーやさまざまなご用でお越しになるの方々のお役に立てるよう努めて参ります。



↑ 区議団を代表して、市長に要望内容を説明する本間賢次郎。